

オオイヌタデ

タデ科，一年生

草高が1.5m以上になる大型雑草で，本県の大豆作でもっとも代表的な雑草。耐湿性が強く，水田輪作体系で増加した。

発生期間	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		出芽					開花結実					



形態的特徴	子葉は長だ円形，1葉以降は披針形で白毛が密生し，中央部に暗色の斑紋がある。茎は直立し，基部から分枝する。茎の先に白～紅色の花穂をつける。草高は1.5mにも達し，収穫作業に支障を来す。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・出芽期間は3月下旬～7月上旬までである。 ・種子は湛水条件でも3年以上生存するので，水稲作後でも発生する。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌処理剤：一般に尿素系で効果が劣る。 ・大豆バサグラン液剤(全面)：効果は高い。ただし，繁茂すると効果が低下するので適期に散布する。処理後の日照時間が極めて少ない場合は効果が低下する。 ・アタックショット乳剤：効果は劣る。3葉以上では，処理後落葉するものの茎部が残り早期に再生する場合はほとんどである。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆作付前不耕起処理により，当年産の種子を早期に出芽させる(3月下旬から5月にかけて高い確率で出芽する)。 ・大豆播種前湛水処理により，種子を齊一に出芽させる。 ・晩播(7月上旬)により，出芽期間を短くする。